

ゼルンに到れば、是れより道路は新舊の二條に岐る。予は其の新道を取りて、行程約十里、八臺一名察爾巴格チャルバクに到る。人家約百二十戸を有し、一週一回の市を設くと。

明れば三十日行程九里餘喀什噶爾河を渡りて瑪喇巴什マラバシの戈壁帶に着す。蓋し阿克蘇出發以來、同河を越ゆるもの二回、即ち初度は八臺パタイの東方に於て、再度今此に瑪喇巴什の西方に於てせり、而して今後尙ほ龍口に於て、復た喀什噶爾漢城と回城の間に於て渡河せざるべからず。河幅は何れも十乃至十五米突、共に堅固なる木橋を架せり。喀什噶爾河の斯く中流に於て幅員の小なるは沿岸渠を鑿ちて引水灌漑するに因る。途上田家多く、瑪喇巴什は人家約三百、巴楚州パチュウ衙門遊擊營ありて、歩隊一營實員百十人を置けり。産物は野麻繩、羊毛、毛氈、羽扇、黃油、鹿角及米其他牛、羊、虎皮等にして、其の内虎皮は近年最も尠しと云ふ。

瑪喇巴什は、四邊沙磧にして山嶽に遠かれるに因り、冬季は北風、夏季は東風多く、南及西方の風を送ること稀なるが、夏季一たび南風を吹き起さんか、天地蒸々宛も釜中に在るが如く流汗淋漓人をして殆んど堪へざらしめ、爲めに菜蔬の類は見る見る黄色を呈し、忽ち枯死して、野に生色なしと云ふ。如何に其の炎熱の酷烈なる

南風野を
枯らす